

研究助成プログラム「理想の追求」募集要項 第10回募集(2018年)

1. 研究助成プログラム「理想の追求」の趣旨

キャノン財団の「理想の追求プログラム」では「人類の英知を深め、社会の理想を追求するような自然科学技術を核とした総合的な研究プロジェクト」に対して助成を行ないます。

このプログラムでは「Frontier、Welfare、Sustainability」の視点からキャノン財団が毎年研究課題を提示します。研究課題にグローバルな視点から挑戦し、人類に夢を与え、大きな課題を解決するような、分野融合的研究プロジェクトを募集します。

2. 募集の概要

2. 1. 助成対象の研究分野

上記の趣旨に従い、2015年度からは「食に関する研究」に助成を行っています。2018年度も引き続き「食に関する研究」を募集します。

食に関する研究はいろいろな観点から、見直されるべき時に来ています。今、人類が抱えている次のような食の課題に向けて取り組む研究プロジェクトを助成の対象とします。

① 飢餓と飽食

グローバルな視点に立つと、地球上には餓死する子供たちを多く抱える貧困な国が存在する一方、先進国においては大量の食料が廃棄されるという状態が続いています。所謂、食の南北問題という課題です。

② 食の安全保障

日本のように食料の大半を輸入に頼っている食料輸入国と、一方で食料の国際的な流通に大きな影響力を持つ少数の企業が存在しています。このことは、我が国が食料の安定供給を確保する上で、食の安全保障という課題に深く関わっています。

③ 第6次産業化

食に関わる産業の在り方にかかわる課題です。従来は第1次産業としての農業が政府の手厚い保護の下に、非効率な産業として存続してきましたが、産業としての農業の抜本的な改革が必要なことは自明となっています。国土の狭いオランダが大国アメリカに次いで農作物関連の輸出で第2位の地位を占めていることは、我が国の農業の在り方に多くの示唆を与えてくれます。科学技術の力によって第1次産業の農業を超近代化し、食品加工や流通・販売、外食産業と有機的・総合的に結合することによって第6次産業として生まれ変わらせる必要があります。この事情は農業に限らず、畜産・水産業においても同じです。

④ 食の文化と健康、美味しさ

和食が、フランス美食術、メキシコの伝統料理、地中海料理に次いで世界無形文化遺産に登録されたように、食は文化的アイデンティティを表明するものとしても重要です。それぞれの文化の

中における「美味しさ」の持つ個性や「医食同源」の古語に見るように健康体の維持・向上に関わる食の研究も科学的なアプローチによってさらに近代化され、健康長寿社会の促進に一役買うことが期待されます。料理のレシピも昨今様々な科学的手法を用いたものが出現し、話題になっています。「美味しさ」や「機能性」を科学的に解明し、新たな付加価値の高い食の生産を革新することです。

⑤食の安全性と流通

グローバルに食材が流通する現在、各国の事情により、あるいは検査の目をすり抜けて有害な食材が流通する危険性は世界の共通認識になっています。この状況を踏まえて、科学技術の力で食の安全性を確保することが期待されています。

研究プロジェクトとして、

- (1) 上に掲げた食に関わる問題を広く包括的にとらえ、様々な視点から食に関して夢を与え、グローバルな問題を解決するような研究プロジェクトの提案
- (2) 異なる研究分野や異なる研究機関の研究者からなる異分野融合チームによる新しい視点に立った研究プロジェクトの提案

等、社会へのインパクトが大きい挑戦的な研究を支援します。

2. 2. 応募条件

研究代表者は、国内の大学および大学院（付属機関を含む）、大学共同利用機関、高等専門学校、その他公的研究機関等の何れかに勤務し、当該機関で実質的に研究できる方です。助成期間中に日本国内に居住している方が対象になりますが、国籍は問いません。助成申請に際し、代表研究者が勤務する大学・研究機関などの所属機関の上長（例えば、学長、大学院研究科長、学部長、研究所長など）から、「キャノン財団研究助成申込書（申請者用）」に承認印（公印）を押印して頂いてください。共同研究者は国内外を問いませんが、代表研究者は責任をもって共同研究者の研究の進捗や、海外への送金・使途など研究費を管理してください。代表研究者が他の応募案件の共同研究者となることは問題ありません。また、大学院生・学生は共同研究者にはなりません。

なお、代表研究者がすでに他の機関から助成を受けている研究は助成対象にならない場合があります。また、代表研究者は当財団に同一年度に複数の申請をすること、および当財団からすでに助成を受けている場合は助成期間が重複した申請をすることはできません。「研究費の不正使用」等により公的機関への申請・参加資格を制限されている方は申請することができません。

2. 3. 助成金額

今回募集する新規採択総額は、「産業基盤の創生」、「理想の追求」プログラムを合わせて 2～3億円を予定しています。

1件あたりの助成申込額は総額 3,000万円を上限として、全体で数件程度を予定しています。

2. 4. 助成金の振込みおよび使途

助成金は原則所属機関に振込まれます。個人口座、海外口座への振込みはできません。助成金の振込みは 2019年 4月より開始し、研究計画に沿って年度毎に振込まれます。

助成金の使途は申請された研究に必要な直接経費としてください。助成金をオーバーヘッド(間接経費、一般管理費)に充てることはできません。なお、助成期間終了時に残った研究助成金は、2015年応募より原則返還していただくことになりましたので、ご了承ください。

2. 5. 助成期間

原則 3年間とします。

2. 6. 募集期間

- ・電子申請期間: 2018年 6月 1日(金) 10時~ 2018年 7月 13日(金) 15時まで
- ・申請書PDF の電子データ提出及び応募書類提出: 2018年 7月 17日(火) 必着

2. 7. 応募方法

応募にはホームページからの電子申請、申請書PDF の電子データ提出、応募書類(申請書と研究助成申込書(申請者用))の郵送による提出が必要です。なお、この時点では共同研究者用の研究助成申込書の提出は不要です。

当財団ホームページ“研究助成プログラム概要”、“研究助成公募のご案内”、“応募書類の記入と提出について”にも説明が記載されています。

(1) 電子申請

当財団ホームページの“電子申請”に必要事項を入力して申請してください。研究テーマ名は、日本語全角半角 30 文字以内としてください。なお、電子申請、申請書、研究助成申込書に記載する研究テーマ名、助成申請額は必ず一致させてください。不一致の場合は受理できません。送信後「受付 No.」が自動返信されます。

(2) 申請書 PDF の電子データ提出(E-mail 送付)

電子申請後に自動返信された「受付 No.」を記入した申請書(Word)を PDF に変換し、E-mail に添付してキヤノン財団助成応募宛 (appli@canon-foundation.jp) に送信してください。E-mail の件名は「受付 No.氏名送付月日」とし、添付する PDF のファイル名も「受付 No.氏名送付月日.pdf」としてください。なお、申請書 PDF のファイル容量は 5MB 以下としてください。「申請書作成(理想)チェックシート」で最終確認した上、電子メールで送付して下さい。

<例>R18-0123 財団太郎 0601

(3) 応募書類の提出(郵送)

電子申請後に自動返信された「受付 No.」を記入した申請書(Word)のコピー5 部(各部両面印刷で左上隅部を金属針ではないホッチキス(紙針等)、またはクリップで留めてください。)とキヤノン財団研究助成申込書(申請者用、公印捺印済みの原本)を角2封筒(A4 サイズ)に入れて当財団にお送りください。「提出書類の応募書類郵送チェックシート」を用いて最終確

認しチェック済みのシートと一緒に送付してください。

※ (2)の申請書 PDF と、(3)の申請書コピーの内容は必ず一致させてください。

宛先: 〒146-8501 東京都大田区下丸子 3-30-2 キヤノン財団事務局

3. 選考方法と採否通知

3. 1. 選考方法

当財団の選考委員が書類審査による一次選考、および面接による二次選考(11月9日を予定)を行います。選考委員会において、慎重審議の上その答申案に基づき、2019年3月開催予定の財団理事会において正式決定されます。

3. 2. 選考基準

選考にあたり下記項目が考慮されます。

- ・挑戦性: 本質的な課題を提案し、大きな目標が設定されている
- ・独創性: 独自の解決方法を提案しており、ブレークスルーが期待できる
- ・先駆性: すでに実施されている研究プロジェクトではなく、新規な研究プロジェクトである
- ・貢献性: 学術あるいは社会に対し研究成果の大きな貢献が期待できる
- ・研究体制: 研究目標を達成するため、研究プロジェクトは異なる研究分野や異なる研究機関の国内外の研究者と協力して、科学技術を核とした分野融合チームの構成となっている
- ・計画性: 限られた期間と予算の下に目標の達成が可能な実施計画である

3. 3. 結果通知

(1)一次選考結果は 10月末までに通知されます。別途、一次選考合格者には以下の二次選考書類の追加提出を改めて連絡いたします。

- ・共同研究者全員の研究助成申込書(共同研究者用)*、研究実施計画書

*「キヤノン財団研究助成申込書(共同研究者用)」を用いて共同研究者それぞれが勤務する大学・研究機関などの所属機関の上長(例えば、学長、大学院研究科長、学部長、研究所長など。共同研究者が企業の場合はその上長など)から、承認印(公印)を押印頂き、全員の研究助成申込書(共同研究者用、公印押印済みの原本)を申請者が取りまとめて送付してください。

(2)二次選考結果は 12月に内示の予定です。最終結果は、2019年 3月開催予定の当財団理事会において正式決定後、直ちに助成決定者宛に通知されます。採否の理由等ご照会には回答いたしかねますのでご了承下さい。

なお、助成先一覧は、正式決定後に当財団ホームページ“研究助成先・成果報告”に掲載されます。

4. 採択決定後の助成対象者(申請者)の義務について

4. 1. 採択決定後の提出物

当財団所定の「助成承諾書」を提出していただきます。

4. 2. 研究助成金贈呈式、研究成果報告会への出席

2019年 4月に予定しています研究助成金贈呈式、助成期間内および終了後に開催するシンポジウム(終了後は研究成果の報告)には、必ず助成金受領者ご本人の出席をお願いいたします。

4. 3. 途中経過および終了後の提出物

- (1) 研究経過報告書(1年経過後、2年経過後)
- (2) 研究終了報告書、研究成果報告書
- (3) 会計報告書(毎年提出、所属機関の会計責任者の承認が必要)

また、当財団の出版物への寄稿や発表会での講演をお願いすることがあります。

4. 4. 研究発表

当財団の助成により得られた研究成果の積極的な公表をお願いいたします。研究成果発表には、当財団から研究助成を受けた旨お書き添えください。英文の場合、例えば、下記のような Acknowledgement をお願いいたします。

This work was (partially) supported by The Canon Foundation.

なお、当財団研究助成の成果に基づく特許または実用新案などの知的財産権に関し、当財団は権利を主張いたしません。

5. 変更発生の場合

助成期間中に所属機関の異動、当該研究の変更や中止、助成金の使途変更、あるいは他の研究者によって研究を遂行する必要がある場合などには、遅滞なく当財団までご連絡ください。

6. 個人情報の取り扱いについて

応募時にご提供いただいた個人情報は、当財団研究助成の業務に必要な範囲内に限定して使用いたします。

2018年 4月
一般財団法人キャノン財団